

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	呉市立明德中学校区
代表者 所属校 役職・氏名	呉市立明德中学校 校長 畑尻 佳括

1 目指す児童生徒像

人とのつながりの中で、自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども

2 明德中学校区が育成を目指す資質・能力と具体的な姿

学習指導要領	知識及び技能 何を理解しているか 何ができるか	思考力、判断力、表現力等 理解していること できることをどう使うか	学びに向かう力、人間性等 どのように社会・世界と 関わり、よりよい人生を送るか
資質・能力	知識・技能 学習の素地として確実に習得させるべき基礎的・基本的な学習内容	思考力・判断力・表現力 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付け、より深く理解する力	主体的に物事に取り組む態度 他者との関わりを通して、異なった価値観や考え方に触れ、自らの考えを広げたり深めたりしながら、粘り強く物事に向かおうとする力
後期	学習の素地として確実に身に付けておく必要がある知識・技能を着実に獲得しており、他の学習や生活の場面でも活用できている。	複数の情報を多様な方法で関連付け、論理的に、自分の考えを表現している。	物事の目標に対して、どこまで達成したのかを把握し、どんなことが課題に残ったのかを考え、これからどのようなことをやっていきたいのかを試行錯誤している。
中期		複数の情報を結び付け、理由や根拠を明らかにして、筋道立てて、自分の考えを表現している。	物事の目標に対して、どこまで達成したのかを把握し、どんなことが課題に残ったのかを考えようとしている。
前期	学習の素地として確実に身に付けておく必要がある知識・技能を着実に獲得している。	理由や根拠を明らかにして、筋道立てて、自分の考えを表現している。	物事の目標に対して、どこまで達成したのかを考え、その後も主体的に取り組もうとしている。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

“つながり”の中で自分を磨き、未来を創り出そうとする子どもの育成
～ 一人一人の学ぶ喜びを引き出す「考える授業づくり」を通して ～

(2) 主題設定の理由

児童生徒を取り巻く社会は、少子高齢化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等、急速な変化により、予測が困難な時代となっている。

この状況を踏まえ、新学習指導要領では、児童生徒一人一人が持続可能な社会の担い手として、様々な変化を自らの課題と認識し、積極的に向き合うこと、他者と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成して新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなど教育課程の基準を大綱的に定めている。

本中学校区は、小規模校である明德小学校・明德中学校の1小学校1中学校で構成される。学年を問わず、互いにかかわりを持ち、学校生活を送っているが、小中を通してクラス替えが

なく、固定化された人間関係の中で、多様な意見や考えに触れる機会が少なく、自己の力を広く発揮する経験が乏しい。このような児童生徒の実態を受け、一昨年「論述ツールを活かした表現活動の充実を図った授業づくり」を研究主題にした研究会を開催し、一定の成果を上げることができた。昨年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、大きな取組は控えたが、令和3年度に向けての準備をする期間を位置付け、2月に本中学校区の児童生徒の実態をつかむためのアンケートを実施した。

その中で、『①相手意識をもとに発言することに苦手意識をもっている』と答えた児童生徒の割合が高いという課題が見られた。これまでの研究成果により、「論述ツールを活用し、話型に沿った表現」については、自信をもって取り組めるが、場や状況に合わせ、自分で考えたことを自分の言葉で表現する力が乏しいという実態が見えてきた。その他にも『②学びと生活、学びと自分とがつながっていない』、『③地域や社会に対する意識が薄い』、これらの3点が小中共通した課題であることが分かった。

これらのことから、『①場や状況に合った自分の思いや考えの表出』、『②自己の生き方における自信と意欲の向上』、『③異年齢の子どもや様々な人との世代を越えた交流による地域社会との“つながり”』、これら3つの目指す児童生徒の力を育成していく必要があると考えた。

これらの力を育成するために、『自ら考え判断し、表現する場の設定』『一人一人の学ぶ喜びを引き出す「考える授業づくり」』、また『総合的な学習の時間と地域社会を結び付けた授業づくり』を視点に実践を行っていく。このことにより、目指す子ども像にある「人とのつながりの中で、自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子ども」の姿が具現化できると考える。

また、呉市が進めている「未来を創る人材の育成～呉に学び、自分を磨き、未来を創る～」、「“つながり”を重視した教育を展開し、新しい時代に求められる資質・能力の育成」を受け、本中学校区の今年度の研究主題を「“つながり”の中で自分を磨き、未来を創り出そうとする子どもの育成～一人一人の学ぶ喜びを引き出す「考える授業づくり」を通して～」と設定した。

他者との“つながり”を重視した交流や活動を通して自分を磨き、個の学力の向上を目指した教育を展開することにより、新しい時代に求められる資質・能力を育成できると考えられる。

研究推進に際しては、「育成部会」と「研究部会」を設け、「育成部会」では、めざす子ども像のうち「人とのつながりの中で」「自他を尊重し」を育む手立てについて、「研究部会」では、「自ら考え判断し」「意欲的に自己を表現する」を育む手立てについて取り組むこととし、小中が共通理解して行っていく内容を明確にし、目的と方法を共有しながら取組を進めることとする。

(3) 各要素の関係

目指す子ども像	資質・能力	育成する力	手立て・取組
人とのつながりの中で、自他を尊重する	主体的に物事に取り組む態度	他者との関わりを通して、異なった価値観や考え方に触れ、自らの考えを広げたり深めたりしながら、粘り強く向かう力	〈育成部会〉 ○ 肯定的評価（褒める、感謝する）の実施 ○ 「家庭学習の手引き」の見直しと活用 ○ 「生活リズムカード」の見直しと改善 ○ 校内外での交流活動の実施 〈研究部会〉 ○ 「対話」のある授業構成 ○ 振り返りの充実（課題発見・解決学習）
自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する	知識及び技能 思考力・判断力・表現力	学習の素地として確実に習得させるべき基礎的・基本的な内容 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解する力	〈研究部会〉 ○ 一人一人の子どもが学びを自分事として捉えることのできる課題設定の工夫 ○ 多様な指導方法や指導体制の工夫 ○ 「個別最適化」の学びの展開 ○ 個の実態やつまずきに応じた指導の充実 ○ 知識を活用した表現活動の設定

4 2部会による研究内容

(部会テーマ) 人とのつながりの中で、自他を尊重する児童生徒の育成

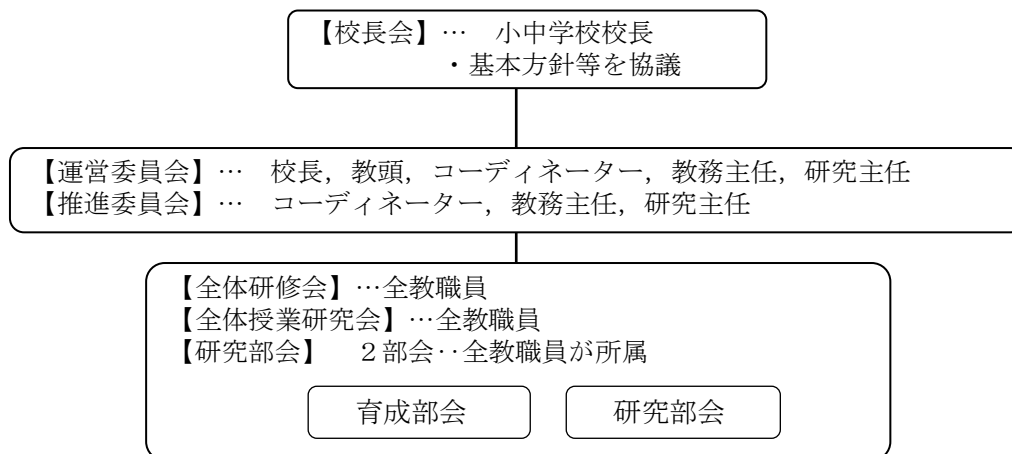
	研究内容
〈育成部会〉	(1) 一人一人の子どもの意欲の向上と自他を尊重する取組の充実 (2) 「家庭学習の手引き(学び方マニュアル)」を活用して予習や復習等、計画的に家庭学習を行わせ、主体的に学ぼうとする意欲の育成 (3) 「生活リズムカード」を活用して自己を見つめさせ、自尊感情の向上 (4) 児童生徒が主体となり、企画また運営する「保小中合同運動会」や、「クリーンキャンペーン」等、異年齢の子どもや地域社会など、世代を越えた交流を通じた他者とかかわり合う力の育成 (5) 総合的な学習の時間と地域社会を結び付けた単元づくり (6) 9年間のカリキュラムマップの実践・検証・改善

(部会テーマ) 自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する授業の創造

	研究内容
〈研究部会〉	(1) 一人一人の子どもが学びを自分ごととして捉えることのできる、また一人一人の子どもの学ぶ喜びを引き出す課題設定の工夫 (2) 課題発見・解決学習の単元開発、単元及び1単位時間で一人一人に身に付けさせたい力を明確にした授業構成 (3) 「対話」を取り入れ、「つながり」や学びを深める授業づくり (4) 児童生徒の実態を的確に把握、分析し、個に合った指導の充実 (5) 知識及び技能を実生活の場面で活用する表現力の育成

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

- 中学校教員による乗り入れ授業
音楽科(合唱指導等), 体育科(陸上競技等)による専門性を生かした実技指導を行う。
※期日については後日決定
- 小学校教員による乗り入れ授業
道徳及び特別活動で協働した授業づくりの実施(※期日については後日決定)

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

他者との“つながり”を重視した交流や活動を通して自分を磨き、個の学力の向上を目指した教育を展開することにより、新しい時代に求められる資質・能力を育成できると考えられる。

(2) 検証方法と検証時期

	検証方法	検証時期
〈育成部会〉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の実態把握と分析方法 ○ 生活リズムカードの実施と分析 ○ 小中合同行事後のアンケートの実施と分析 ○ 校内外での交流活動の実施と分析 ○ 研究仮説の検証と成果と課題の分析 	4～6月 随 時 随 時 随 時 3月上旬
〈研究部会〉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の実態把握と分析方法 ○ 全国学力・学習状況調査の結果分析と指導改善（6年・9年） ○ 授業研究・推進事業による全体協議と授業改善 ○ 標準学力調査の結果分析と指導改善（小学校） ○ 研究仮説の検証と成果と課題の分析 	4～6月 6月下旬 随 時 2月中旬 2月下旬

7 推進計画

	中学校区研修計画等	明徳中の研修計画等	明徳小の研修計画等
4	研究部会① (各部会) 取組の共通理解		<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画, 研究テーマの確認 ※ 「個々の児童が学ぶ喜びを感じる授業の在り方」
5			<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 研究テーマ, 研究方法に沿った研修 ※ 第2学年(授業観察)
6	全体研修会① 「SEL研修」6/30(水) 島根県立大学 山田洋平准教授を招聘	<ul style="list-style-type: none"> ・明徳中授業交流期間 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 「学ぶ喜びサポート事業」における研修 ※ 本事業に係る取組の共通理解 ※ 第2学年の実態把握と分析方法 6/3(木)
7			<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のまとめ
8	研究部会② 進捗状況・情報交換		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ※ 第2学年の授業観察に基づく実態把握 ※ 第2学年指導案検討・模擬授業 9/16(木)に向けて
9	クリーンキャンペーンに 代わる取組 (自治会と協議) 4月中		<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究(第2学年における国語科) 9/16(木) ・全体協議
10	全体研修会② ・授業研究(6年) 安田女子大学 朝倉淳教授を招聘 第6学年() 10/22(金)		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ※ 第6学年指導案検討・模擬授業 10/26(火)に向けて ※ 第2学年指導案検討・模擬授業 11/25(木)に向けて

11		・明徳中授業交流期間	・授業研究3年・5年 11/17(水) (第3学年:算数・第5学年:算数) ・全体協議 ・授業研究(第2学年における算数科) 11/25(木)
12			・2学期のまとめ (12月中旬に標準学力調査を実施)
1	研究部会③ (各部会)取組のまとめ	・明徳中授業交流期間	・授業研究1年 1/19(水) (第1学年:算数) ・全体協議
2	全体研修会③ 「SEL研修」2/9(水) 島根県立大学 山田洋平准教授を招聘		・校内研修(2月中旬~下旬) 「標準学力調査の課題を受けての分析」 ・次年度に向けての計画作成
3	研究部会④ 次年度に向けての計画作成		・取組のまとめ (仮説の検証と成果と課題の分析)

8 その他

- 「小中一貫教育だより」の発行
年3回,学期に一度ごとに発行し,地域・保護者へ配布する。
- 小中合同行事の実施
合同運動会(5月23日実施予定)の実施